

オルガノ株式会社

2025年3月期 決算説明会資料

(証券コード：6368)

2025年5月19日

目次

1. 25年3月期実績・26年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目次

1. 25年3月期実績・26年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

25年3月期実績・26年3月期計画の概要

2025年3月期 実績

(単位：百万円)	25.3期実績	前期比	前回見込比 (2025.2.5)
受注高	151,272	6,804 4.7%	-3,728 -2.4%
売上高	163,269	12,913 8.6%	-4,231 -2.5%
営業利益	31,120	8,576 38.0%	120 0.4%
%	19.1%	4.1pt	0.6pt
ROE	21.7%	3.3pt	—

- 受注高は電子産業分野で台湾向けが大きく伸長も、日本や中国・東南アジアで投資の計画が想定より遅れたことも影響
- 売上高はソリューションや機能商品は好調な推移に加え、大型案件続くプラントが伸長。前回見込に対しては工事進捗が若干想定を下回ったことが影響。
- 営業利益は売上拡大の効果に加え、良好な受注環境を背景にプラント案件などの利益率改善が寄与

2026年3月期 計画

(単位：百万円)	26.3期計画	前期比
受注高	180,000	28,728 19.0%
売上高	175,000	11,731 7.2%
営業利益	31,500	380 1.2%
%	18.0%	-1.1pt
ROE	18.8%	-2.9pt

- 受注高は日本・台湾や米国・欧州などで大型の半導体案件を複数受注する計画。米国の関税政策の動向を注視
- 売上高は受注したプラント案件の工事進捗に加え、ソリューション・機能商品の売上拡大を計画
- 営業利益は人件費など中心に販管費の拡大を想定。売上拡大によって前期並の利益水準を確保する計画

26年3月期計画の前提

受注高 1,800億円
(前期比+19.0%)

売上高 1,750億円
(同+7.2%)

営業利益 315億円
(同+1.2%)

米国の関税政策などを背景に、株式市場や為替の動向に混乱が見られ、世界的な不況を懸念する見方もある中で、当社の主力市場である半導体市場は市況の先行きに対する不透明感強い。一部の案件では投資計画の延期や中断等が検討される一方、先端半導体など想定以上の投資計画が検討される動きも見られる。現時点で判明している動きについては業績見通しに反映。景気悪化に伴う間接的な影響などは想定しきれず

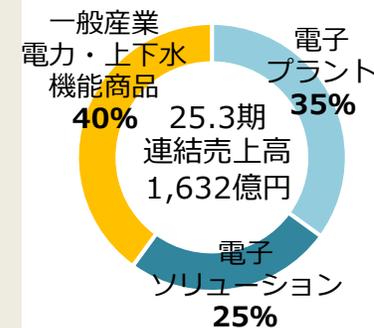
米国関税政策の影響

- ・ 当社のビジネスは「地産地消型」モデルが中心、2024年度のクロスボーダー取引は売上高の10%未満、仕入高の20%未満に留まる。米国との直接取引も一部の材料の調達等に限り、関税率の変動に伴う影響は軽微であると想定
- ・ プロジェクトによっては、顧客の要求や仕様等に基づき材料や設備のモジュールユニットなど域外からの輸入量が大きくなる場合もあるが、輸送費や関税など取引に関わる費用も積算コストに含め、契約（販売）価格が決定されるケースが多い

半導体市況や景気動向の影響

- ・ 市況や景気の動向によって電子-プラント部門は設備投資の時期・規模が変動し業績に影響するケースあり案件の動向等を注視
- ・ 一方、電子-ソリューション部門や一般産業、電力・上下水や機能商品などは市況の影響を受けにくい。比較的高い利益水準を維持できており、安定的な収益基盤として期待

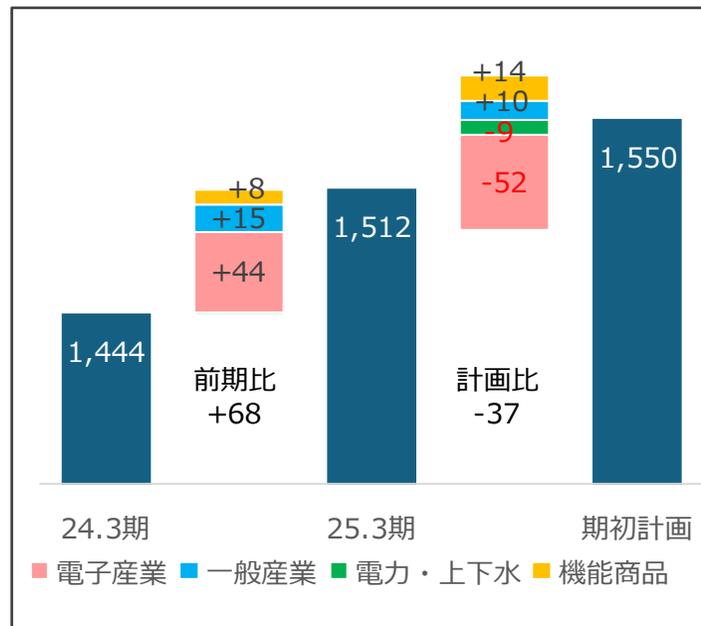
売上ポートフォリオ



25年3月期：受注高・売上高・営業利益の概況

(単位：億円)

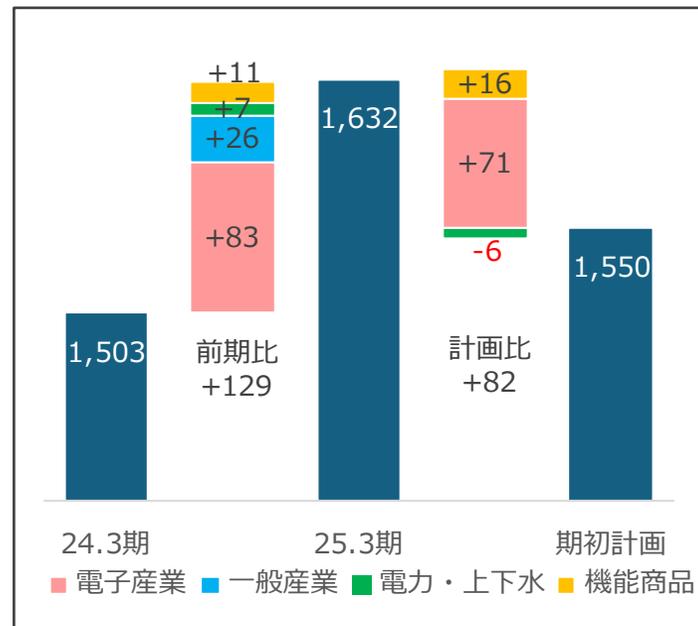
受注高分析



【受注高】

電子産業は台湾での最先端半導体向けの大型投資が活発に推移。一方で日本や中国、東南アジアでは大型案件の投資が期初の想定に比べ延期されたことも影響。一般産業や機能商品は好調に推移

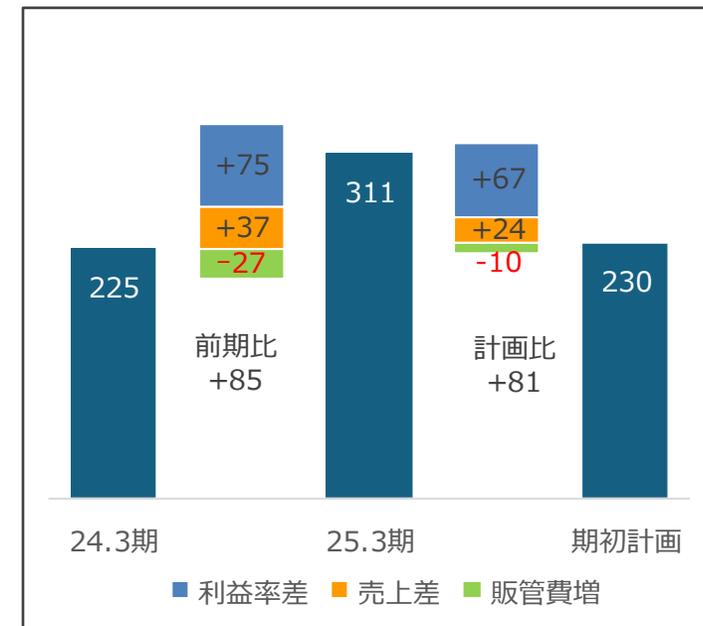
売上高分析



【売上高】

電子産業はプラントの拡大に伴ってソリューション売上も順調に拡大。一般産業もソリューション中心に成長。機能商品は半導体向けの水処理薬品や機能材の販売が好調に推移し売上拡大

営業利益分析



【営業利益】

良好な受注環境を背景にプラント案件の受注時採算性が改善。比較的利益率の高いソリューションや機能商品の拡大も寄与。販管費は人件費や外注費、デジタル投資など中心に拡大

25年3月期：連結損益計算書

(単位：百万円)	24.3期 通期実績	25.3期 期初計画	25.3期 前回見込 (2025.2.5)	25.3期 通期実績	前期比	期初 計画比	前回 見込比
受注高	144,468	155,000	155,000	151,272	6,804 4.7%	-3,728 -2.4%	-3,728 -2.4%
売上高	150,356	155,000	167,500	163,269	12,913 8.6%	8,269 5.3%	-4,231 -2.5%
売上総利益	43,841	46,000	54,000	55,182	11,341 25.9%	9,182 20.0%	1,182 2.2%
%	29.2%	29.7%	32.2%	33.8%	4.6pt	4.1pt	1.6pt
販管費	21,297	23,000	23,000	24,061	2,764 13.0%	1,061 4.6%	1,061 4.6%
営業利益	22,544	23,000	31,000	31,120	8,576 38.0%	8,120 35.3%	120 0.4%
%	15.0%	14.8%	18.5%	19.1%	4.1pt	4.3pt	0.6pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,310	16,100	23,000	24,150	6,840 39.5%	8,050 50.0%	1,150 5.0%
ROE	18.4%	15.0%	—	21.7%	3.3pt	6.7pt	—

25年3月期：セグメント別の業績

(単位：百万円)		24.3期 通期実績	25.3期		前期比	期初 計画比	前回 見込比	
		期初計画	前回見込 (2025.2.5)	通期実績				
全社	受注高	144,468	155,000	155,000	151,272	6,804 4.7%	-3,728 -2.4%	-3,728 -2.4%
	売上高	150,356	155,000	167,500	163,269	12,913 8.6%	8,269 5.3%	-4,231 -2.5%
	営業利益	22,544	23,000	31,000	31,120	8,576 38.0%	8,120 35.3%	120 0.4%
	%	15.0%	14.8%	18.5%	19.1%	4.1pt	4.3pt	0.6pt
水 工 シ	受注高	120,420	131,500	130,000	126,327	5,907 4.9%	-5,173 -3.9%	-3,673 -2.8%
	売上高	126,393	131,500	142,500	138,130	11,737 9.3%	6,630 5.0%	-4,370 -3.1%
	営業利益	19,111	19,600	27,300	27,382	8,271 43.3%	7,782 39.7%	82 0.3%
	%	15.1%	14.9%	19.2%	19.8%	4.7pt	4.9pt	0.6pt
機 能 商 品	受注高	24,048	23,500	25,000	24,944	896 3.7%	1,444 6.1%	-56 -0.2%
	売上高	23,962	23,500	25,000	25,139	1,177 4.9%	1,639 7.0%	139 0.6%
	営業利益	3,433	3,400	3,700	3,738	305 8.9%	338 9.9%	38 1.0%
	%	14.3%	14.5%	14.8%	14.9%	0.6pt	0.4pt	0.1pt

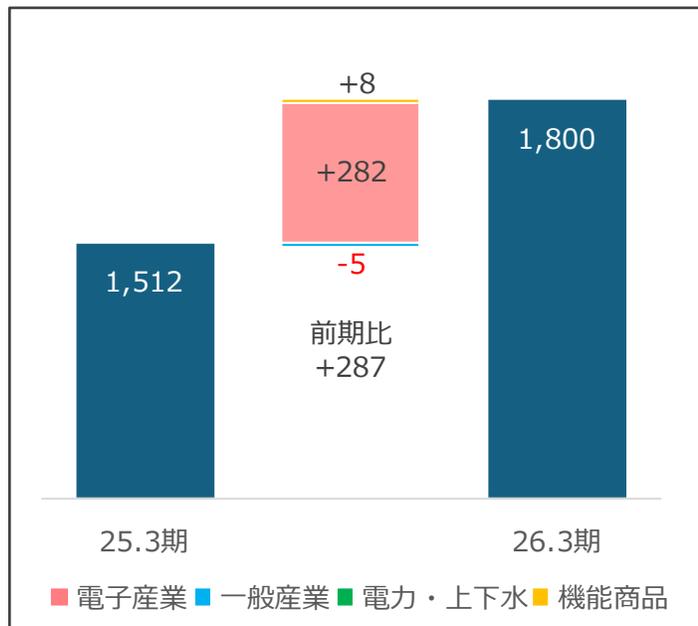
25年3月期：連結貸借対照表

(単位：百万円)	24.3期 通期実績	25.3期 通期実績	前期比		24.3期 通期実績	25.3期 通期実績	前期比
現預金	17,642	16,751	-891	買掛債務	22,682	28,087	5,405
売掛債権・契約資産	82,226	83,953	1,727	短期借入金	34,065	18,877	-15,188
商品・製品・原材料等	12,609	11,356	-1,253	その他	15,854	17,436	1,582
リース投資資産	27,814	35,512	7,698	流動負債合計	72,602	64,401	-8,201
仕掛品	9,221	11,169	1,948	長期借入金	2,400	3,680	1,280
その他	3,955	5,624	1,669	その他	5,553	5,119	-434
流動資産合計	153,469	164,367	10,898	固定負債合計	7,953	8,799	846
固定資産合計	29,233	30,028	795	負債合計	80,555	73,201	-7,354
資産合計	182,703	194,396	11,693	純資産合計	102,147	121,194	19,047
				負債純資産合計	182,703	194,396	11,693
				自己資本比率	55.8%	62.2%	+6.4pt

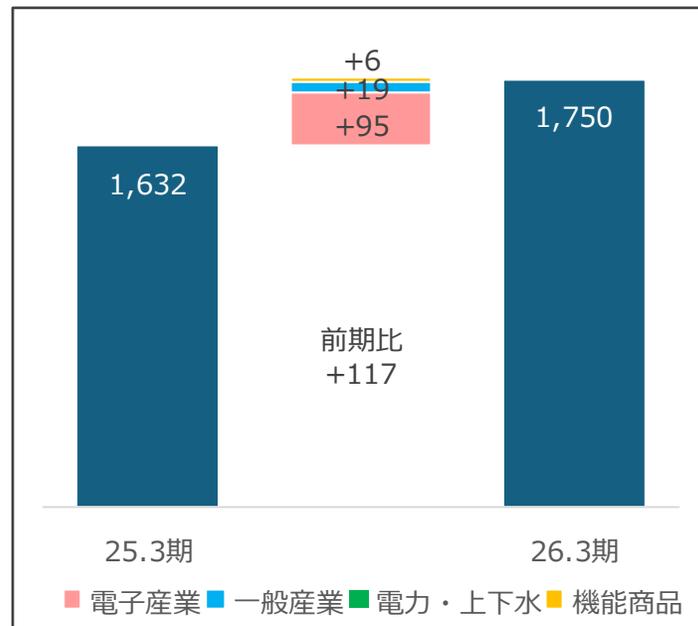
26年3月期：通期計画の概要

(単位：億円)

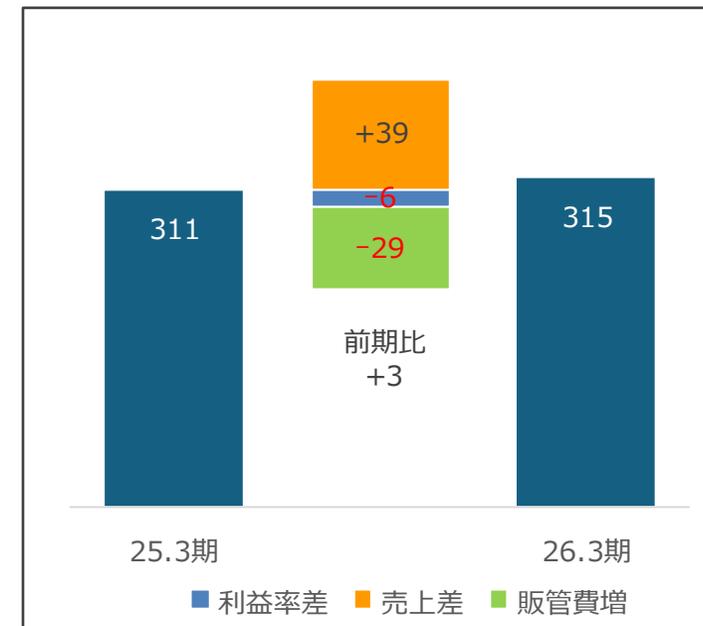
受注高分析



売上高分析



営業利益分析



【受注高】

米国の関税政策など市況の先行きには不透明感があるが、日本や台湾、米国・欧州などで計画されている半導体向け大型プロジェクトの受注を想定。一般産業、電力・上下水は前期並の受注水準を見込む

【売上高】

電子産業分野は受注拡大でプラント売上が伸長、ソリューションも拡大を見込む。一般産業もプラント案件の工事進捗やメンテナンスの伸長を計画。機能商品は水処理薬品や機能材など中心に売上を拡大

【営業利益】

水エンジ・機能商品とも売上総利益率は前期並を見込む。売上増の効果によって人件費やDX・RD投資などの販管費の積極拡大をカバーする計画。営業利益は前期を若干上回る水準を想定

26年3月期：連結損益計算書（計画）

(単位：百万円)	25.3期		26.3期		上期比較	通期比較
	上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
受注高	92,755	151,272	97,000	180,000	4,245 4.6%	28,728 19.0%
売上高	74,323	163,269	77,500	175,000	3,177 4.3%	11,731 7.2%
売上総利益	23,143	55,182	24,500	58,500	1,357 5.9%	3,318 6.0%
%	31.1%	33.8%	31.6%	33.4%	0.5pt	-0.4pt
販管費	11,663	24,061	13,000	27,000	1,337 11.5%	2,939 12.2%
営業利益	11,480	31,120	11,500	31,500	20 0.2%	380 1.2%
%	15.4%	19.1%	14.8%	18.0%	-0.6pt	-1.1pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,134	24,150	7,500	24,200	-634 -7.8%	50 0.2%
ROE	—	21.7%	—	18.8%	—	-2.9pt

26年3月期：セグメント別の計画

(単位：百万円)		25.3期		26.3期		上期比較	通期比較
		上期実績	通期実績	上期計画	通期計画		
全社	受注高	92,755	151,272	97,000	180,000	4,245 4.6%	28,728 19.0%
	売上高	74,323	163,269	77,500	175,000	3,177 4.3%	11,731 7.2%
	営業利益	11,480	31,120	11,500	31,500	20 0.2%	380 1.2%
	%	15.4%	19.1%	14.8%	18.0%	-0.6pt	-1.1pt
水 工 シ	受注高	80,166	126,327	84,100	154,200	3,934 4.9%	27,873 22.1%
	売上高	61,885	138,130	64,600	149,200	2,715 4.4%	11,070 8.0%
	営業利益	9,802	27,382	9,550	27,630	-252 -2.6%	248 0.9%
	%	15.8%	19.8%	14.8%	18.5%	-1.0pt	-1.3pt
機 能 商 品	受注高	12,589	24,944	12,900	25,800	311 2.5%	856 3.4%
	売上高	12,437	25,139	12,900	25,800	463 3.7%	661 2.6%
	営業利益	1,677	3,738	1,950	3,870	273 16.3%	132 3.5%
	%	13.5%	14.9%	15.1%	15.0%	1.6pt	0.1pt

目次

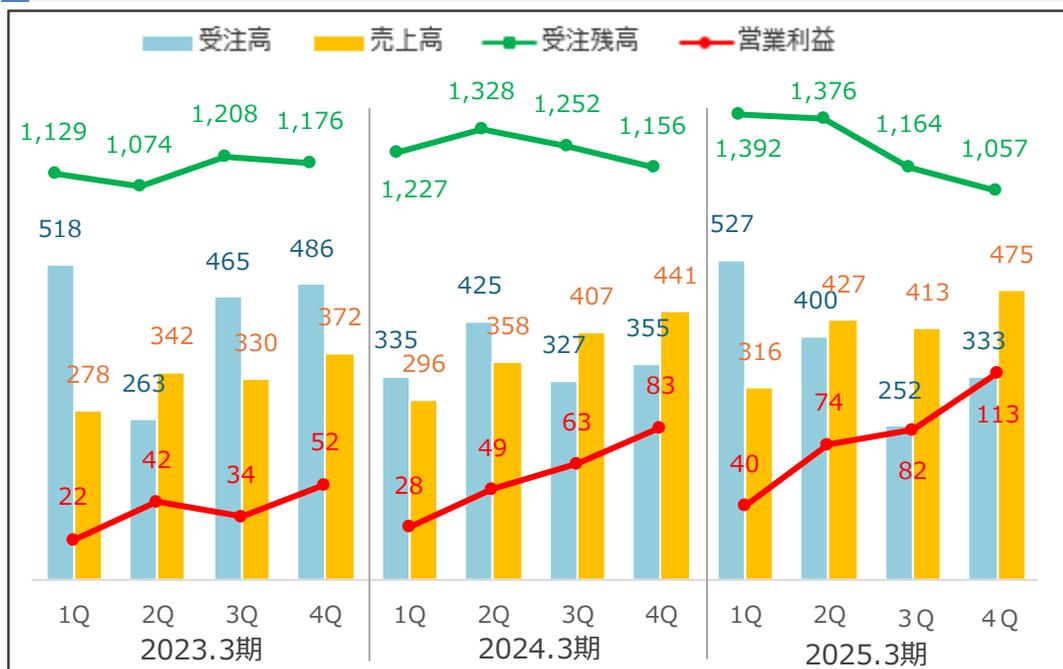
1. 25年3月期実績・26年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

受注高・売上高・受注残高・営業利益の推移（四半期・年間）

（単位：億円）

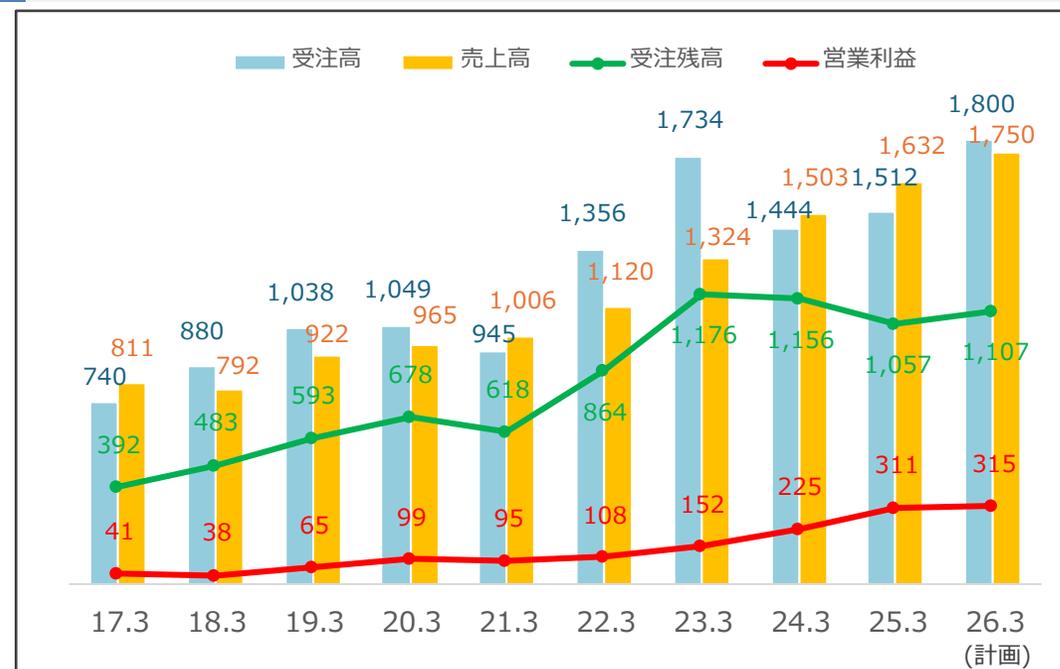
四半期間業績の推移



【四半期業績の推移】

受注高は大型プロジェクトの動向によって変動。売上高は工事の進捗率に応じて計上されるが、期末納期の案件も多く第4四半期に向かって増加する傾向。営業利益もプロジェクトの予想原価の変動や仕様の変更・追加などに伴う追加金の交渉状況等によって左右され、期末に向かって利益率が改善・利益額も増加する傾向

年間業績の推移



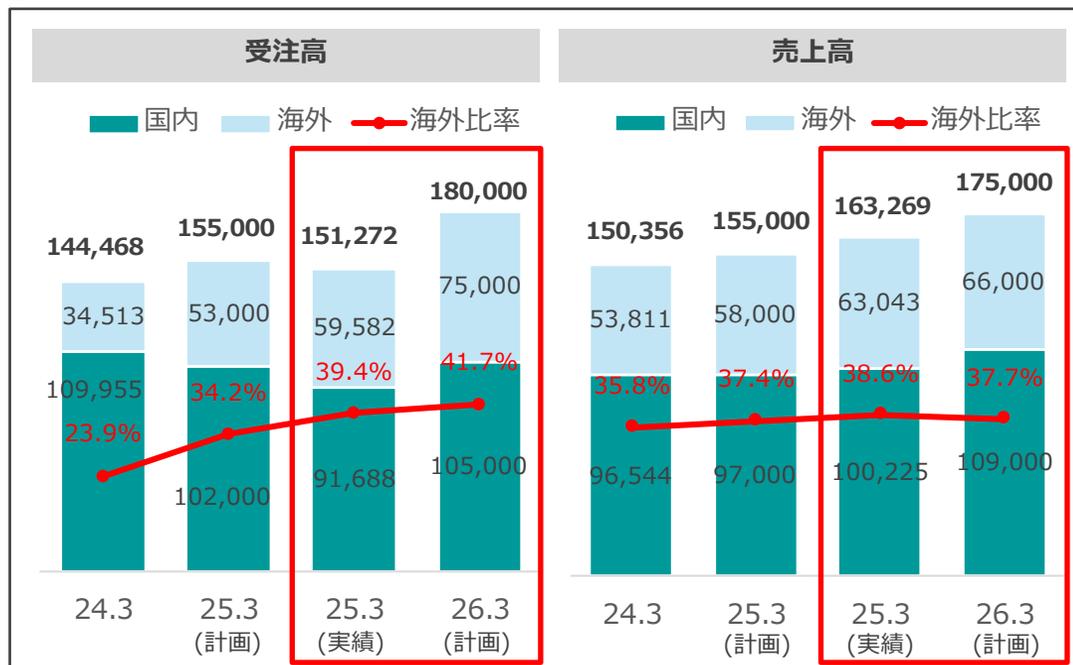
【年間業績の推移】

台湾などで半導体投資が活発化した2018年以降業績が改善。高水準の設備投資が続いたことで受注環境は改善。付加価値の高い案件に注力できたことや、投資規模の拡大、原材料・工事価格の上昇などを背景とした受注価格の上昇も採算性改善を後押し。プラント納入の増加でメンテや消耗品などソリューション・機能商品も拡大

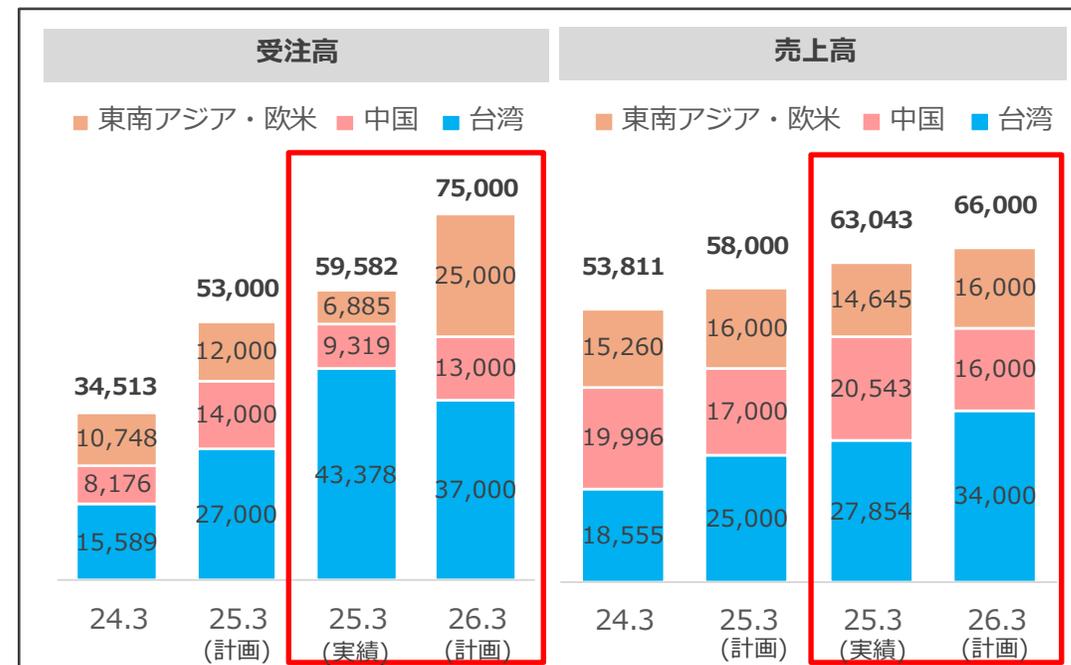
地域別受注高・売上高の推移

(単位：百万円)

地域別受注高・売上高



海外地域別受注高・売上高



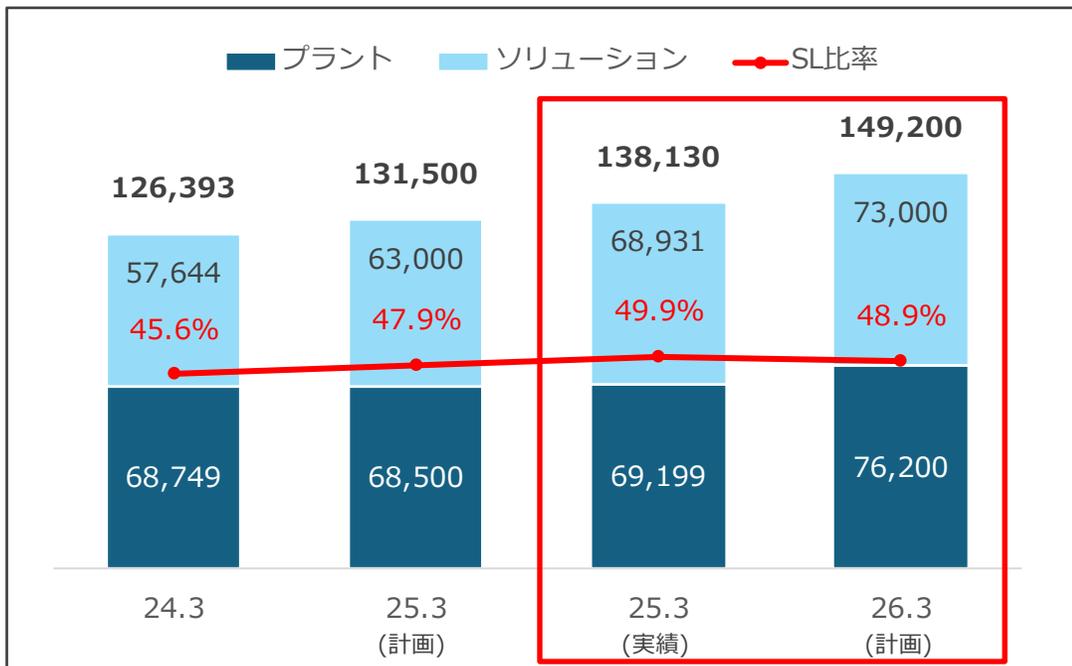
- 25.3期は国内の大型投資が想定より延期も、台湾など海外の受注拡大が寄与。売上は国内外とも順調に拡大
- 26.3期は国内・海外で受注・売上ともに拡大を計画、日本や台湾・欧米で半導体関連の大型案件の受注を想定

- 25.3期は台湾の受注が大きく伸長、中国や東南アジアは投資の延期が影響。売上は繰越受注残もあり各地域で拡大
- 26.3期は台湾での受注がやや落ち着くが、米国・欧州での大型案件の受注を計画。売上も順調な拡大を想定

事業セグメント別・部門別売上高の推移

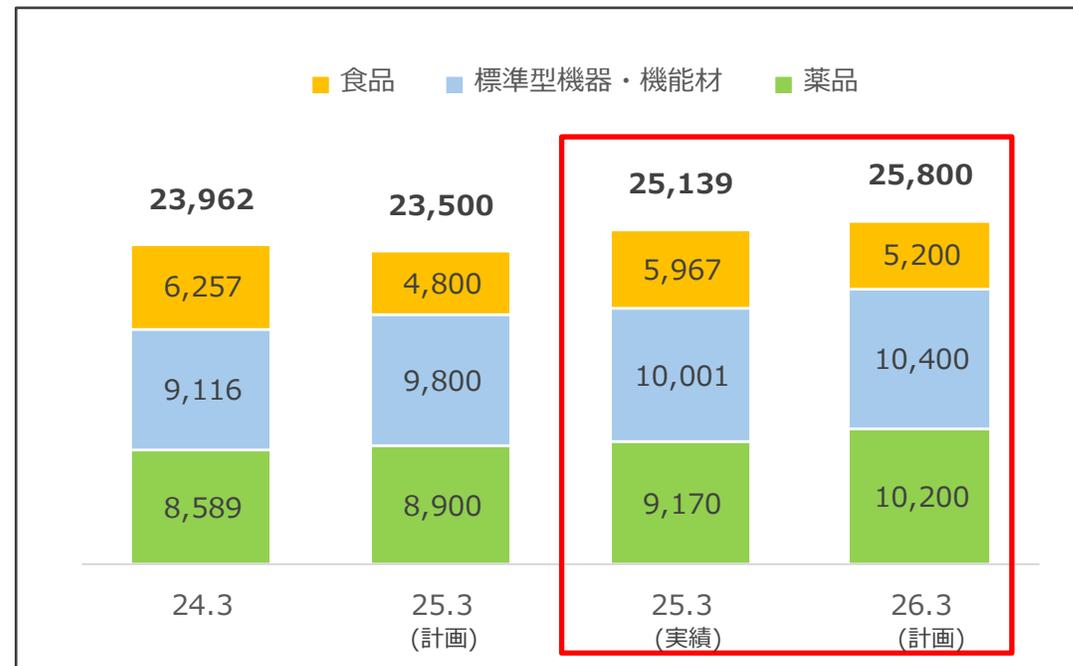
(単位：百万円)

水エンジニアリング事業：部門別売上高



- 25.3期は案件の工事進捗によりプラントが増加、ソリューションもメンテナンスや設備保有型サービスなど順調に拡大
- 26.3期も電子産業・一般産業でプラント拡大を想定。ソリューションは台湾・中国など海外の電子産業向けの拡大を計画

機能商品事業：部門別売上高



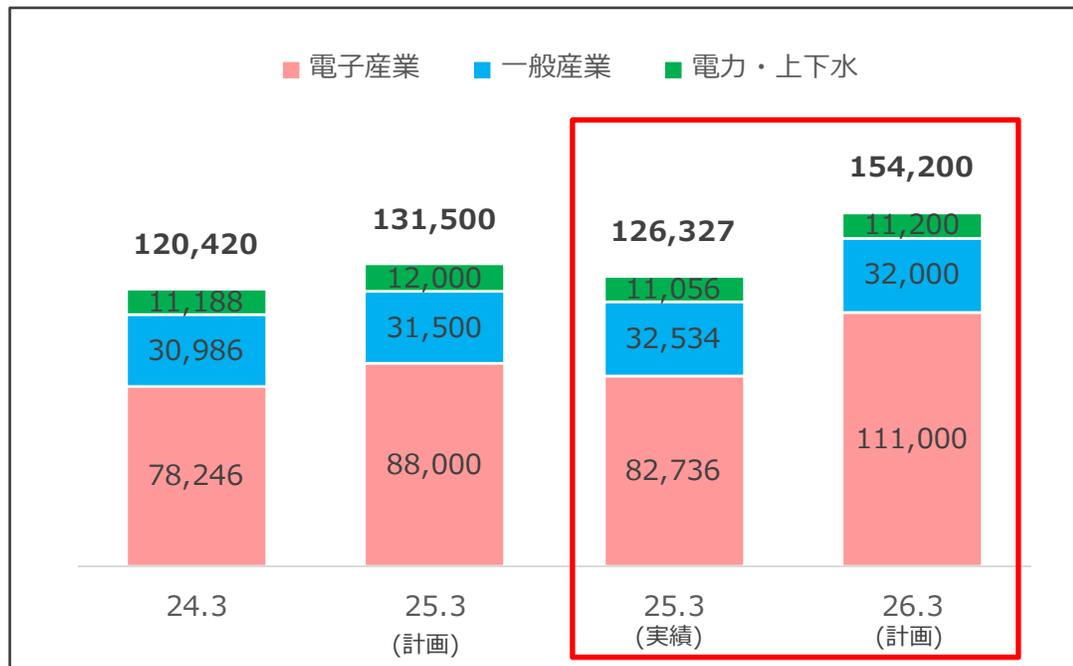
- 半導体工場に向けた排水処理剤・RO膜処理剤などの水処理薬品や、半導体材料の高度分離精製に向けた機能材などの拡販を計画。標準型機器は台湾や中国など海外での展開を強化。食品は25.3期に続き低採算の取引整理を継続

※前年まで水エンジニアリング事業：ソリューション部門に集計されていた分離精製事業を機能商品事業：機器・機能材分野に組替

水エンジニアリング事業：市場別受注高・売上高の推移

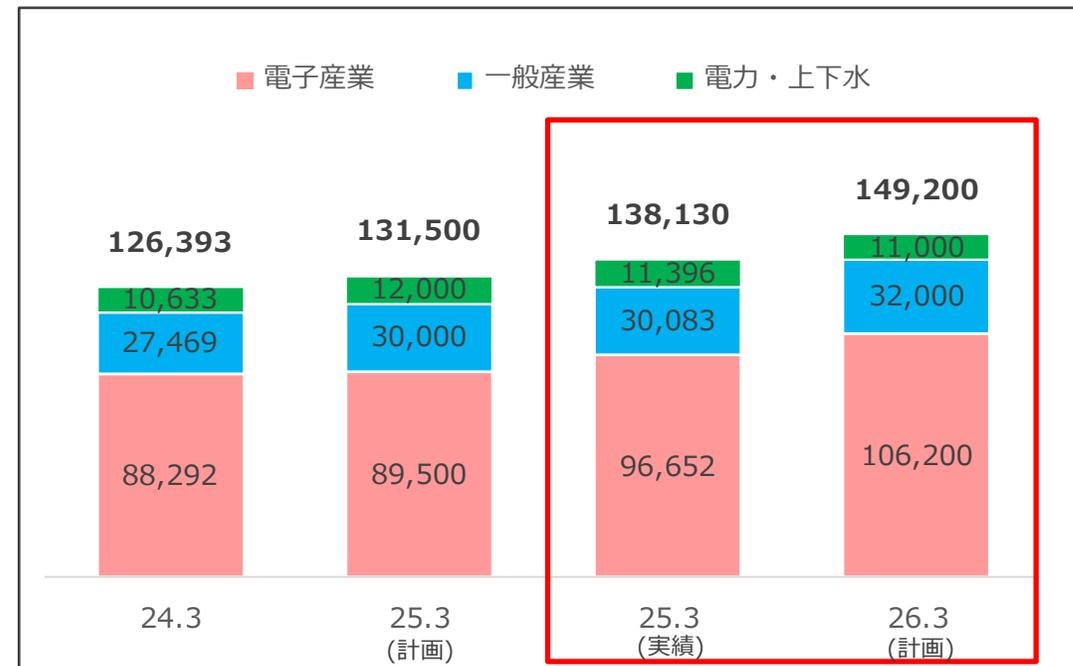
(単位：百万円)

市場別受注高



- 25.3期は電子産業分野で国内外の大型案件の延期が影響、一般産業はハイパーカミオカンデの受注などで拡大
- 26.3期は国内外で半導体関連の大型案件受注を計画。一般産業も前期並の受注を計画。電力・上下水は堅調に推移

市場別売上高

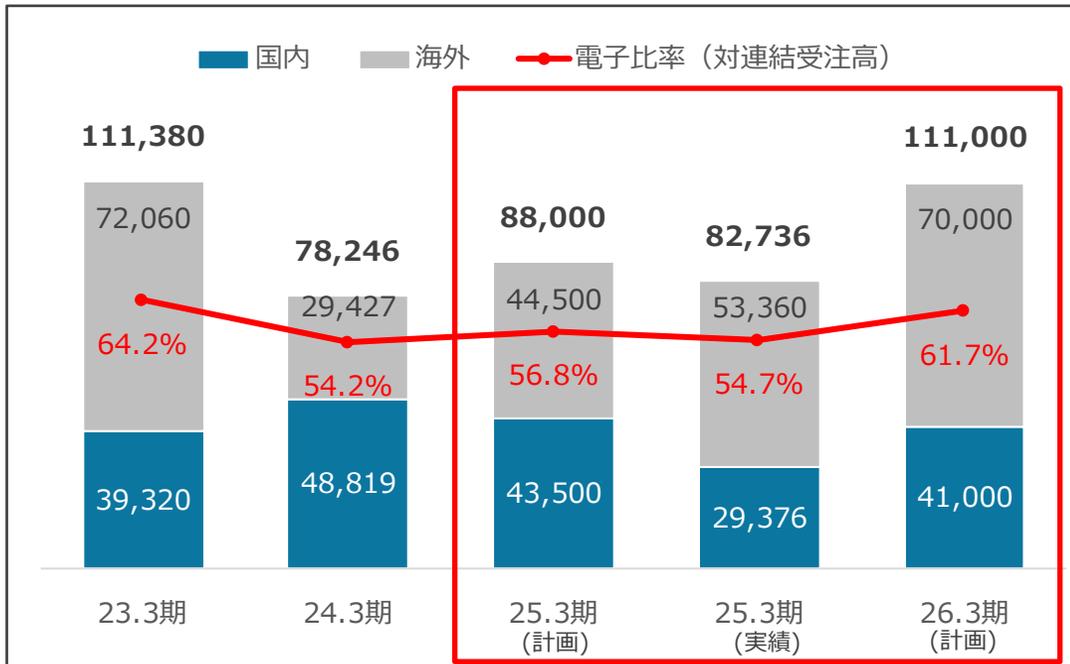


- 25.3期は受注残案件の工事進捗やソリューションの伸長など電子産業・一般産業とも順調に拡大。
- 26.3期は大型案件の工事進捗やソリューション伸長によって電子産業・一般産業が拡大。電力・上下水は堅調に推移

電子産業分野 受注高・売上高の推移

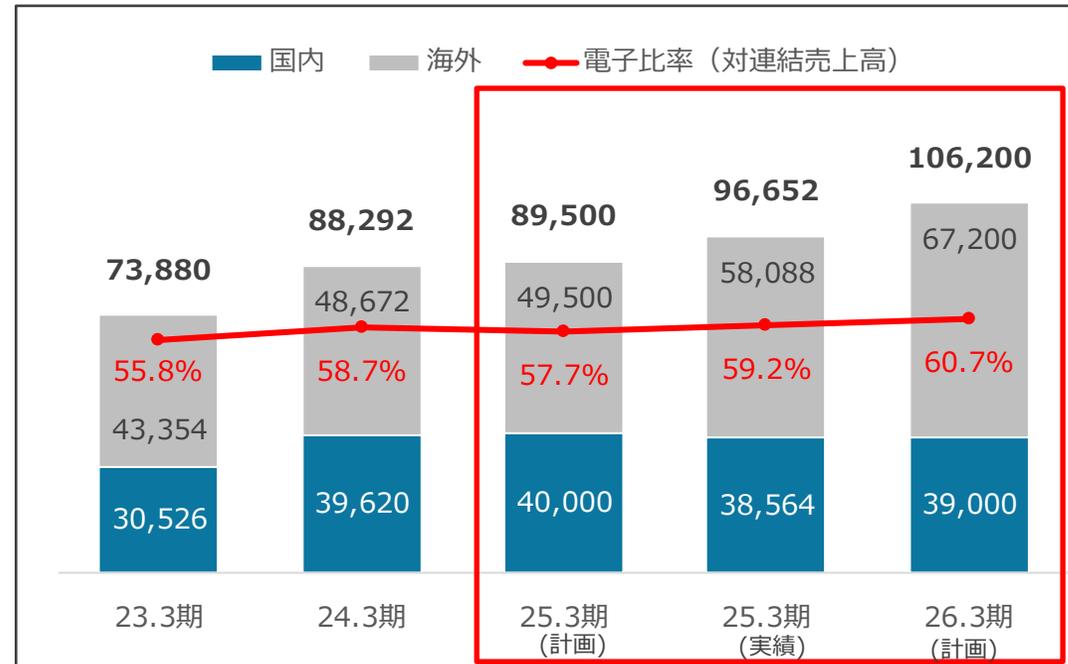
(単位：百万円)

電子産業分野：地域別受注高



- 25.3期は最先端半導体など台湾が大幅に伸長も国内や中国・東南アジアなどで想定していた大型の投資案件が延期に
- 26.3期は国内や台湾に加え、アメリカやヨーロッパなどでも半導体関連の大型プロジェクト受注を計画

電子産業分野：地域別売上高

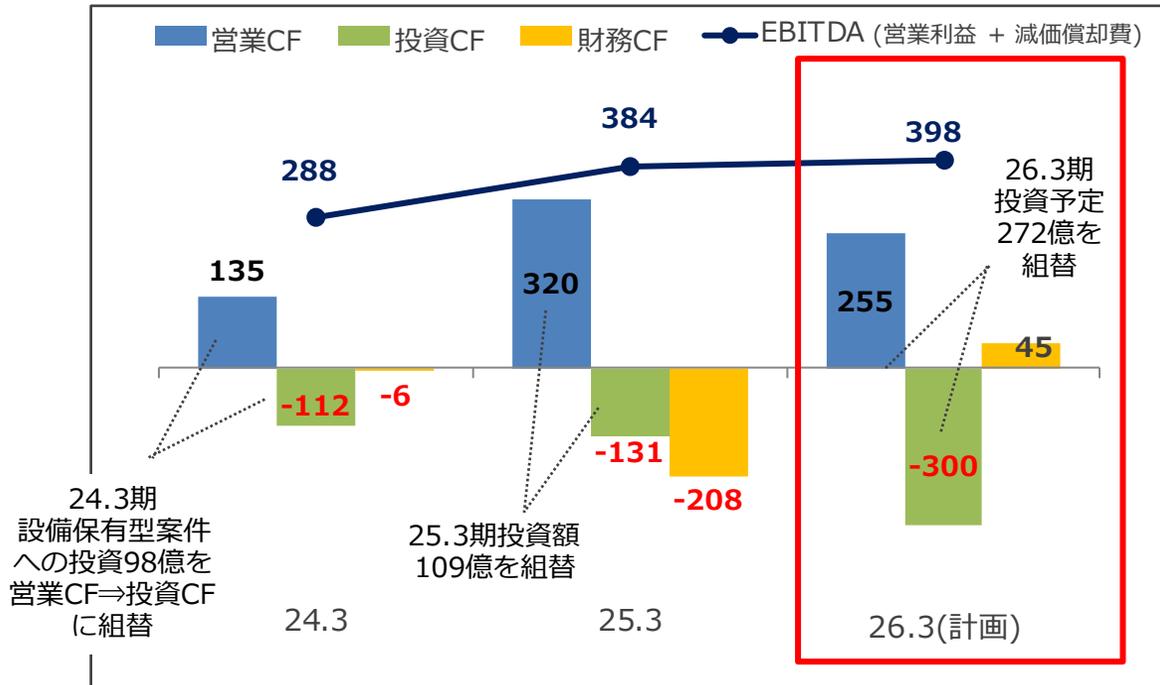


- 25.3期は大型案件の延期も影響し国内は前期比・計画比とも減小。海外は台湾・中国などで伸長
- 26.3期は国内で前期並水準を想定。海外は台湾に加え、大型案件の受注を計画する米国・欧州での売上拡大を想定

キャッシュ・フローと設備保有型サービスの動向

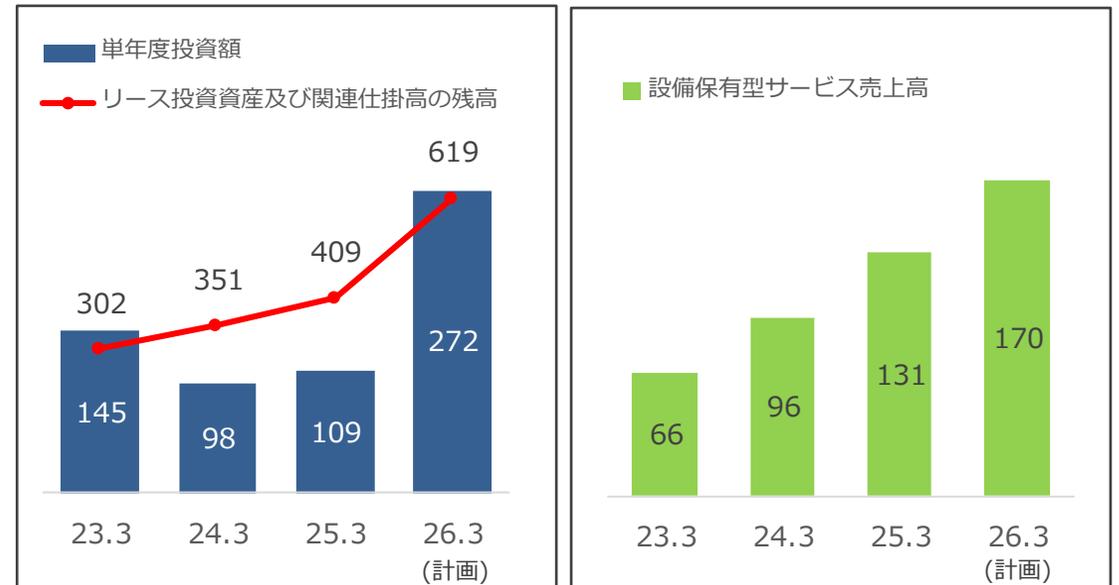
(単位：億円)

キャッシュ・フロー（組替後）の推移



- 当社のキャッシュ・フローは業績動向に加え、大型案件の工事進捗や代金の回収状況が増減に大きく影響
- 26.3期はプラント案件の入金や設備保有型案件の回収によって営業CFは高水準で推移。設備保有型への投資も拡大

設備保有型サービスの動向



- 設備保有型サービスの売上は順調に拡大。投資に当たってはROICやIRR等用いて収益性を評価。一定以上の収益性を確保
- 設備保有型への投資額は「リース投資資産」（建設中は仕掛品）に計上、契約期間に応じて減価償却。流動資産に含まれるため、CF計算書では投資額を営業CFとして計上。左記のグラフでは設備保有型への投資額を投資CFに組替

主な指標

(単位：百万円)	24.3期	25.3期		26.3期
	通期実績	期初計画	通期実績	通期計画
設備投資額	1,855	2,500	2,803	3,500
技術研究費	2,829	3,400	3,253	3,600
減価償却費	2,010	2,000	1,925	2,000
有利子負債	36,465	37,000	22,557	35,000
従業員数（人）	2,512	2,600	2,660	2,860

※設備投資額と減価償却費は設備保有型サービスへの投資額・償却費を含まず

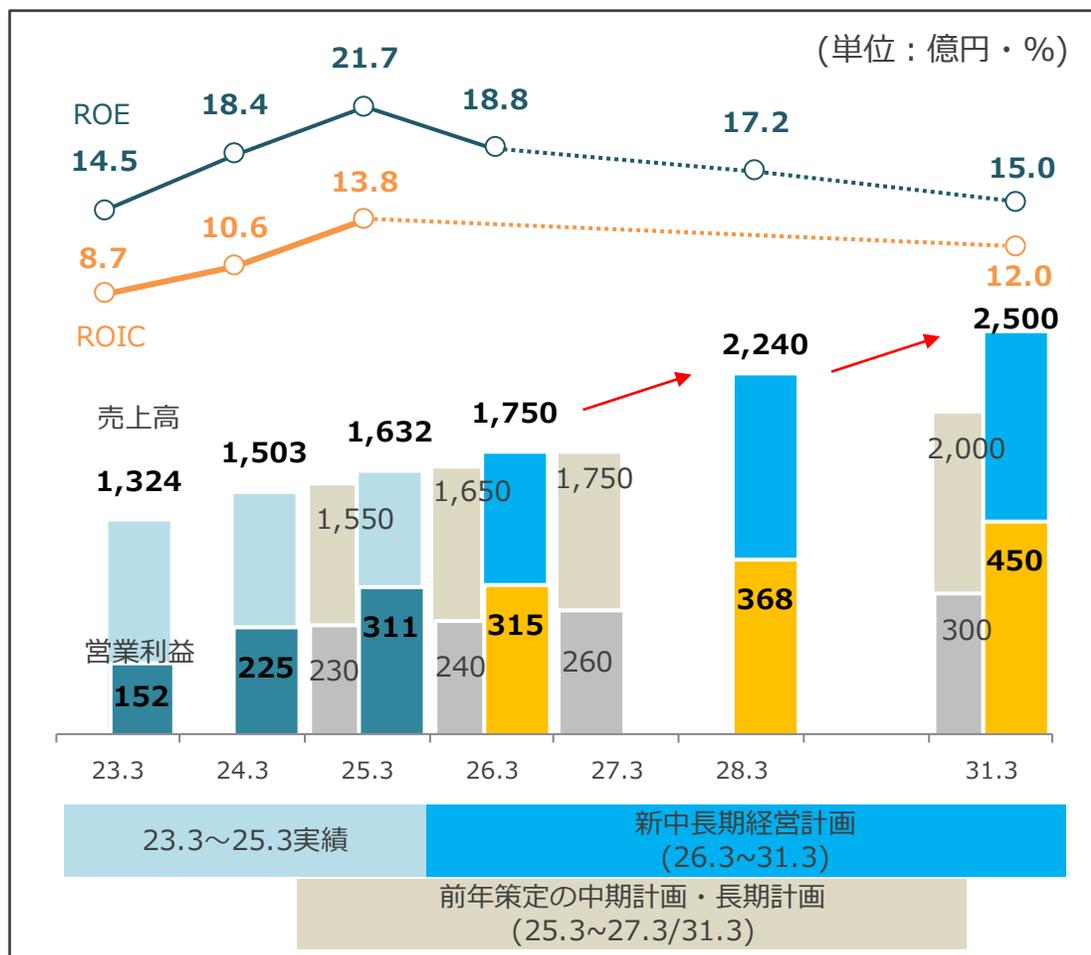
目次

1. 25年3月期実績・26年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

中長期計画：計画の概要

中長期計画の目標値



ORGANO2030達成目標 (2031.3期)

売上高

2,500億円以上
(25.3~31.3 CAGR 7%以上)

営業利益率

15~18%
15%以上を必達目標として
18%以上を目指す

ROE

15%以上
成長スピードの鈍化もあり低下を
想定も安定的に15%以上を維持

ROIC

12%以上
売掛債権・棚卸資産など運資本
の効率化を進め12%以上を継続

※ROICはNOPAT (税引後営業利益) ÷ 投下資本 (売掛債権 + 棚卸資産 + 設備保有型関連資産・固定資産) で計算

中長期計画：ORGANO2030に向けた課題・取組みの再整理

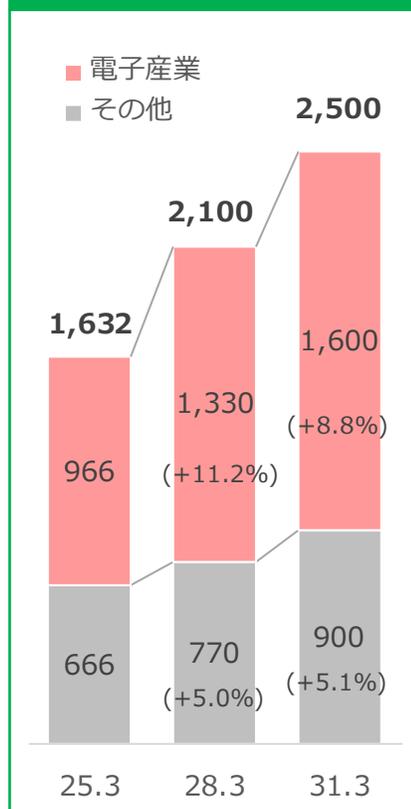


事業成長戦略：部門別計画

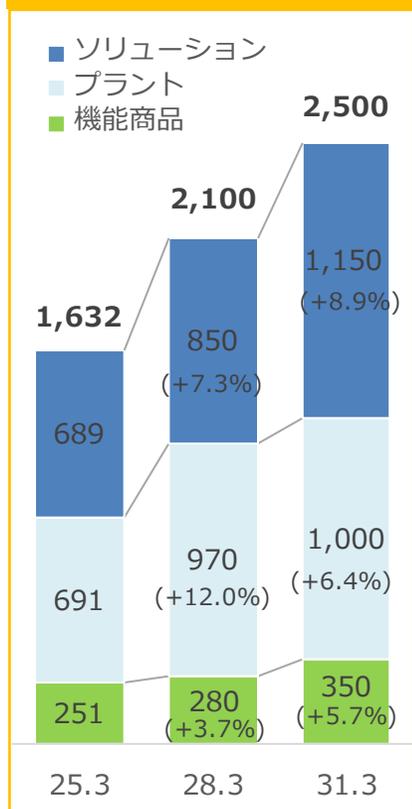
(単位：億円)

事業成長戦略

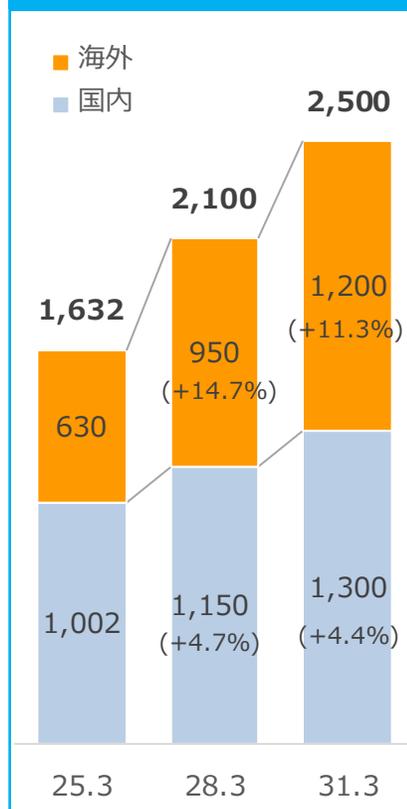
市場別売上高



事業分野別売上高



地域別売上高



電子産業分野の拡大

半導体など電子産業分野への展開を成長ドライバーとして事業拡大・技術革新・エリア展開を推進。エンジニアリング体制の強化、次世代技術の開発、新たな地域への進出などに取り組む

ソリューション強化

国内外の納入設備に対するサービスネットワークの構築に加え、省エネ・脱炭素・省力化など顧客の課題解決につながる提案力の強化に向け、サービスメニューや機能商品の拡充に取り組む

グローバル展開

電子産業分野を中心にアメリカやヨーロッパなど顧客進出に伴う展開を進めると共に、韓国など未進出のエリアやインドなど成長が見込まれる地域への展開を検討

アロケーション明確化

事業成長戦略に沿った人員・投資のリソース配分や優先順位付けなど、戦略の実行力を強化すべく、従来以上にアロケーションを明確化して取り組みを進める

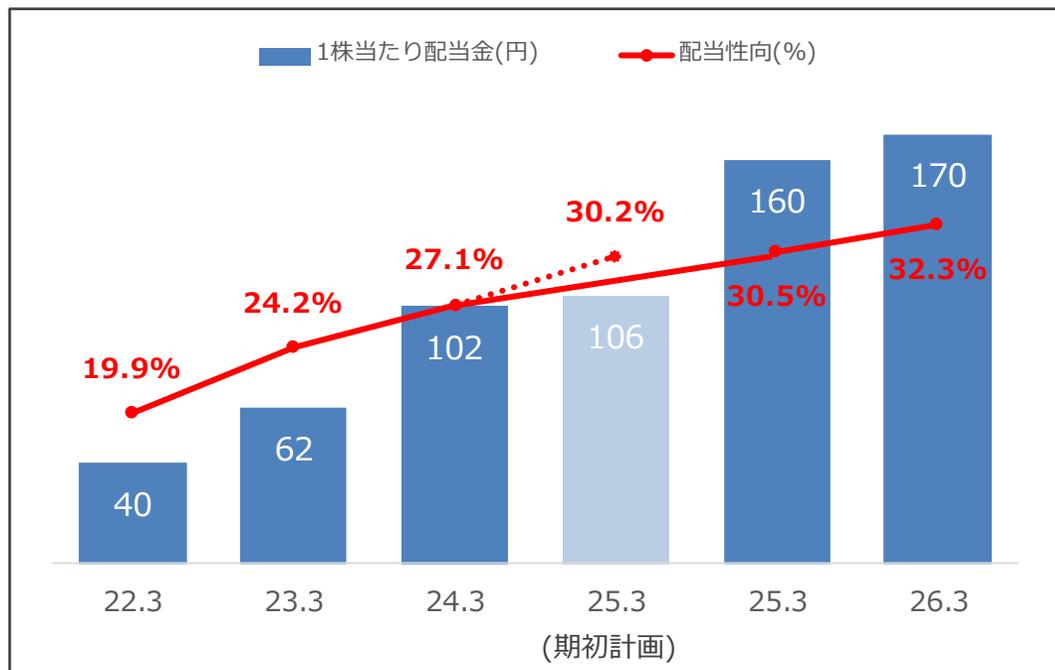
※ () 内はCAGR

バリューチェーン強化・経営基盤の拡充

バリューチェーンの強化		経営基盤の拡充	
エンジニアリング体制の強化	プラント・エンジニアリングプロセスの効率化に向けた <u>デジタル関連の投資拡大や、エンジニアの確保・育成など人材戦略、サプライチェーンの強化などをグローバルに展開し、</u> エンジニアリングキャパシティの拡充を図る	人材戦略	エンジニアの採用・スキル向上やデジタル人材の育成などの <u>人材戦略をグローバルに展開</u> する。また、 <u>従業員のエンゲージメント向上</u> に向けた取組みを推進する
技術開発・知財戦略の強化	次世代の超純水・高度分離精製などの技術力強化や、設備の安定運転やサステナビリティ課題など顧客へのソリューション提案力の強化に向け、 <u>新たな製品・技術・サービスの開発体制を拡充し、それを活かす知財戦略の強化</u> に取り組む	デジタル戦略	デジタル投資を拡充し、 <u>設備の計画・設計などエンジニアリングデータや設備の運転・保全に関するデータなどの集計・解析基盤の整備と活用</u> を進める
国内外拠点の強化	顧客へのソリューション提案・提供力の強化に向け、販売・メンテナンスネットワークを強化するとともに、代理店や協力業者などの開拓に取組み、 <u>国内外で顧客との接点強化</u> を図る	ESG戦略	安全・ガバナンス・サステナビリティなど経営基盤として拡充を進め、 <u>事業活動とESGへの取組みを連動させた経営を推進</u> する
		財務戦略	事業戦略の実現に向け、財務基盤の強化と成長投資を加速する。 <u>運転資本の効率化に取組むとともに、M&Aなど成長投資の加速と株主還元拡大の両立を目指す</u>

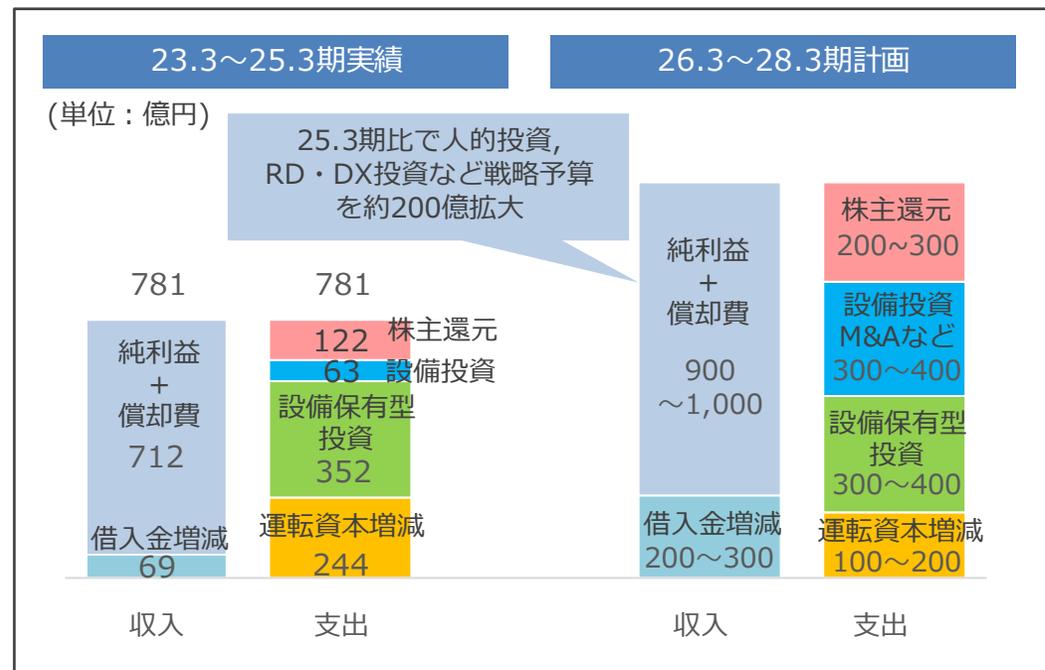
財務戦略：株主還元施策とキャピタルアロケーション

株主還元施策



- 25.3期は業績予想の改善に伴い配当予想も増額修正、年間配当を160円（配当性向30.5%）まで増額。26.3期も継続増配となる170円(配当性向32.3%)を計画
- 配当性向30%以上の水準を維持しつつ、増配の継続を目標とする。株主還元と成長投資の両立と拡大を目指す

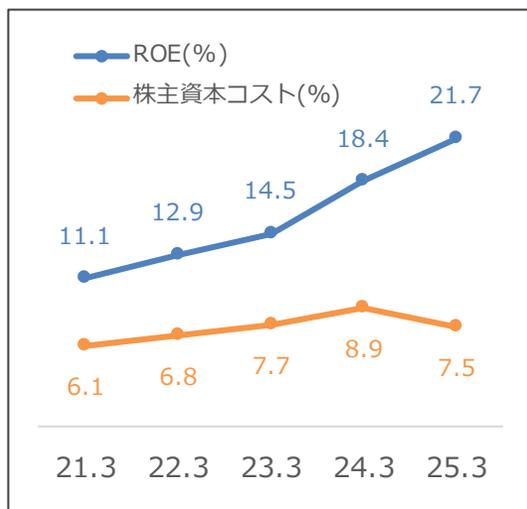
キャピタルアロケーション



- 売上拡大や設備保有型サービスの回収本格化で収入増を想定。人件費やDX・RD投資や設備投資・M&Aなどの成長投資の積極的拡大を図る。設備保有型サービスへの投資も増加
- 運転資本は売掛債権や棚卸資産の効率化に取り組み、キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮化に取り組む。株主還元は増配・配当性向の改善を継続する

財務戦略：株価の推移と資本コスト

株価の推移・資本コストとROEの推移



- 業績の伸長に合わせ株価も上昇。米国の関税政策等を背景とした市場の混乱により、25年3月末の株価は下落もPBRは2倍を超える水準を維持
- 株主資本コスト（CAPM）は7～9%程度と想定。収益性の改善によりROEは株主資本コストを上回る状況が続く

※資本コストはCAPM($R_f + \beta(R_m - R_f)$)で算出(値は2025年3月期)
 R_f (リスクフリーレート): 長期国債(10年)利回り: **1.50%**
 β (β 値): 株価変動率(5年・月次・Levered): **1.16**
 R_m (マーケットリスクプレミアム): **6.67%**

● ROEの分解(25.3期)

ROE	=	収益性	×	効率性	×	財務健全性
21.7%		14.8%		0.87回		1.69倍
		売上高 当期純利益率		総資産 回転率		財務 レバレッジ

中長期計画ではROE15%以上を安定的に計上できる体制を目指す。財務健全性を維持しつつ、収益力の向上、経営効率の改善、成長投資の拡大に取り組む

収益力	比較的利益率の高いソリューション・機能商品の拡大で 収益基盤の安定化 を推進	成長投資	人件費の拡大など キャパシティ拡充に向けた投資 や、 M&Aなど成長投資 にも積極的に取り組む
経営効率	入金条件の改善や棚卸資産の削減など キャッシュ・コンバージョン・サイクルの短縮 を図る	財務健全性	財務健全性を維持しつつ、 成長投資の拡大と株主還元 の拡大に取り組む

目次

1. 25年3月期実績・26年3月期計画の概要
2. 事業部門別実績・計画の分析
3. 中長期経営計画について
4. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

会社概要：経営理念とビジョン

■ 経営理念

オルガノは、水で培った先端技術を駆使して未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

■ 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

■ サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します



E 水で培った最適化技術*で、水環境保全や温暖化防止に貢献する環境配慮型製品・サービスを提供します

S 人権および多様な価値観・個性を尊重し、従業員ひとり一人が成長し活躍する職場づくりを推進します

G 全てのステークホルダーとの対話と連携を重視し、誠実かつ公正な企業活動を遂行します

*水で培った最適化技術には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています



代表取締役社長 山田正幸

会社概要：オルガノの歩み（売上高推移）

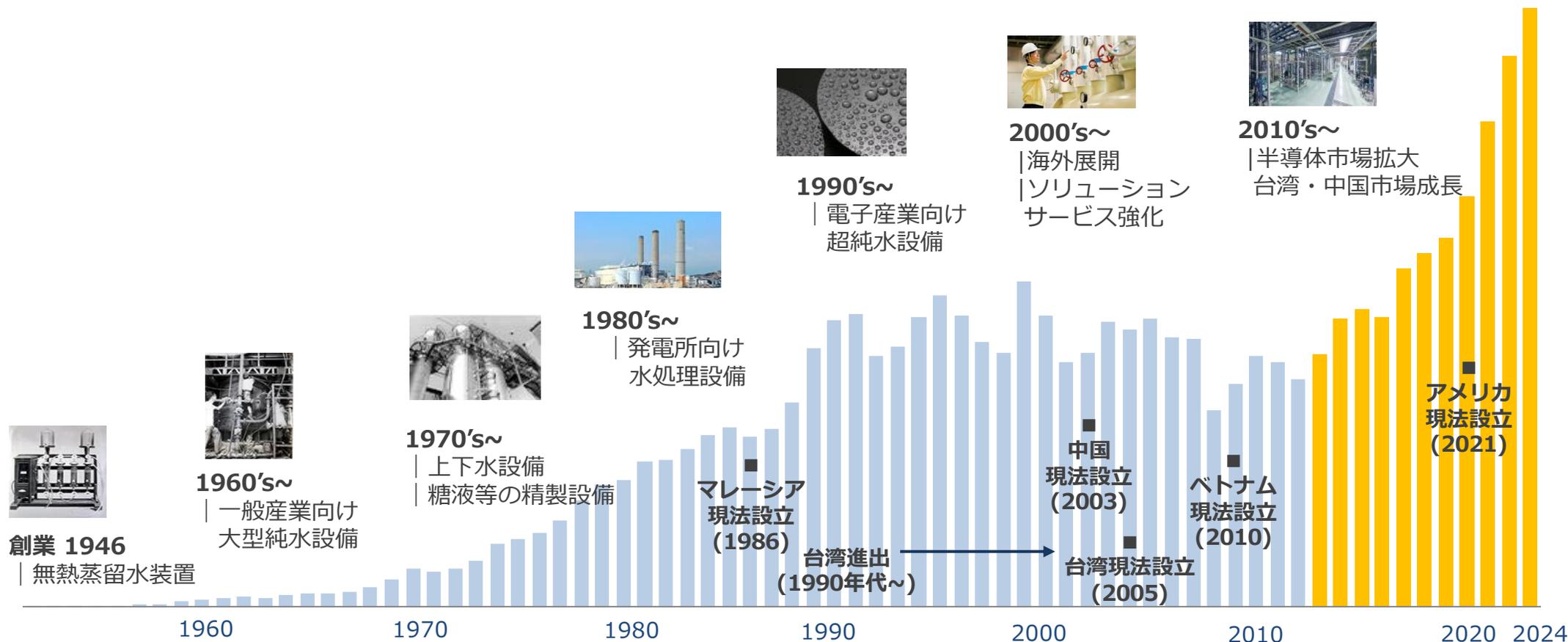
創業期

成長期

成熟期

飛躍期

● 売上高の推移



会社概要：オルガノの事業構成

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業



設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型機器・機能材事業



純水・超純水製造装置
フィルタ
機能材（分離精製材）

| 食品事業



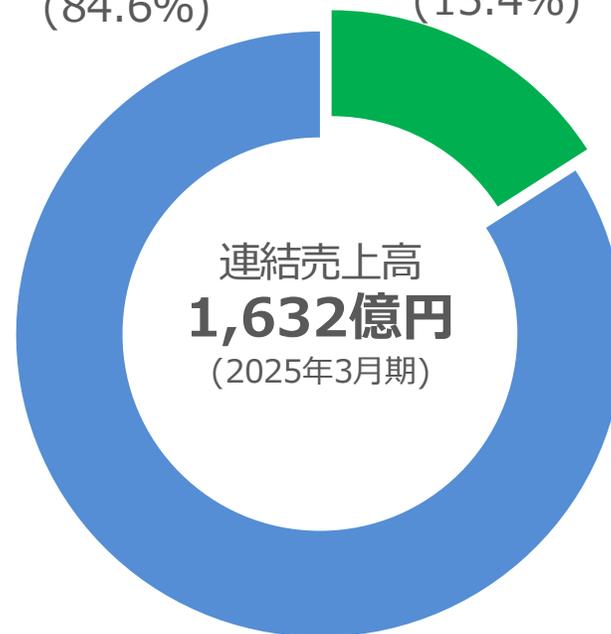
食品添加剤・加工剤
食品素材

| 事業別売上高



1,381億円
(84.6%)

251億円
(15.4%)



※金額は25.3期売上高、%は売上構成比率

会社概要：大株主の状況・株主構成

大株主（上位10名）

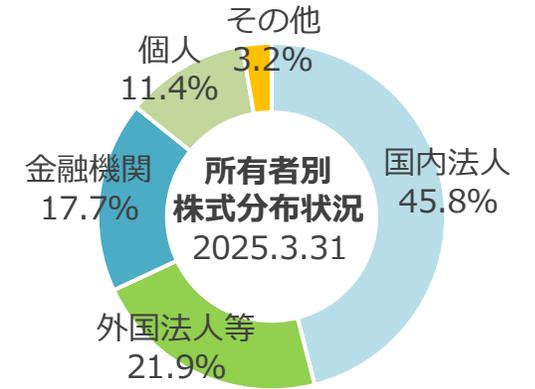
（2025年3月31日現在）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー（株）	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	4,607	10.01
（株）日本カストディ銀行（信託口）	1,867	4.06
KBC BANK NV – UCITS CLIENTS NON TREATY	1,011	2.20
（株）みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	407	0.88
JP MORGAN CHASE BANK 385781	373	0.81
JPモルガン証券（株）	359	0.78
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	356	0.77
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	349	0.76

※持株比率は自己株式(338千株)を控除して計算

株主構成

- 発行可能株式総数 101,568千株
- 発行済株式総数 46,359千株
（自己株式 338千株を含む）
- 株主数 12,094名

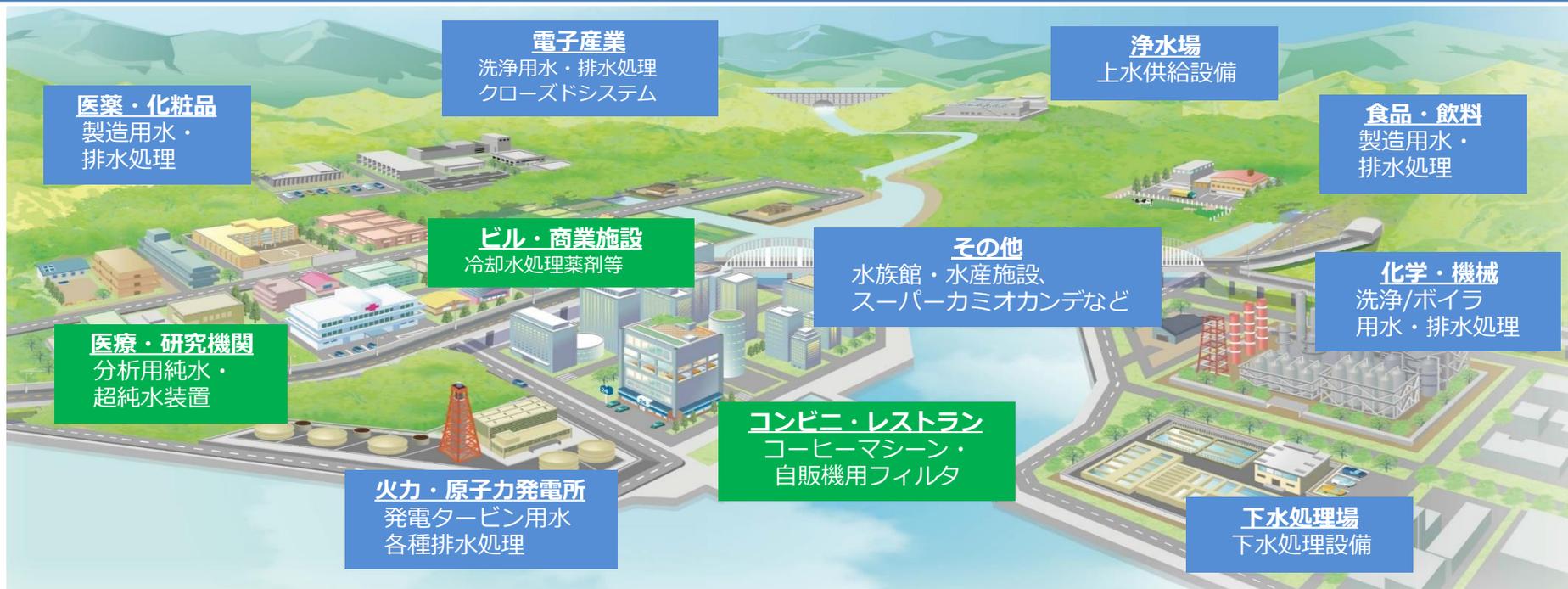


●親会社の状況

当社の親会社である東ソー（株）とは1955年に資本参加を受け入れて以来の関係にあります。当社と東ソーとの営業取引関係については、一部原材料の仕入や水処理設備・薬品等の販売取引がありますが、取引の規模は小さく、両者が扱っている製品や取引先の点でも明確な棲み分けがなされております。

当社は上場会社として事業活動や経営判断において一定の経営の独立性が確保されているものと認識しており、親会社グループと少数株主間の利益相反問題を監視・監督するため、独立社外取締役のみで構成される特別委員会を設置するとともに、2023年6月開催の第78回定時株主総会以降、取締役会に占める独立社外取締役の比率を過半数にしております。

会社概要：生活と産業を支えるオルガノの水処理技術

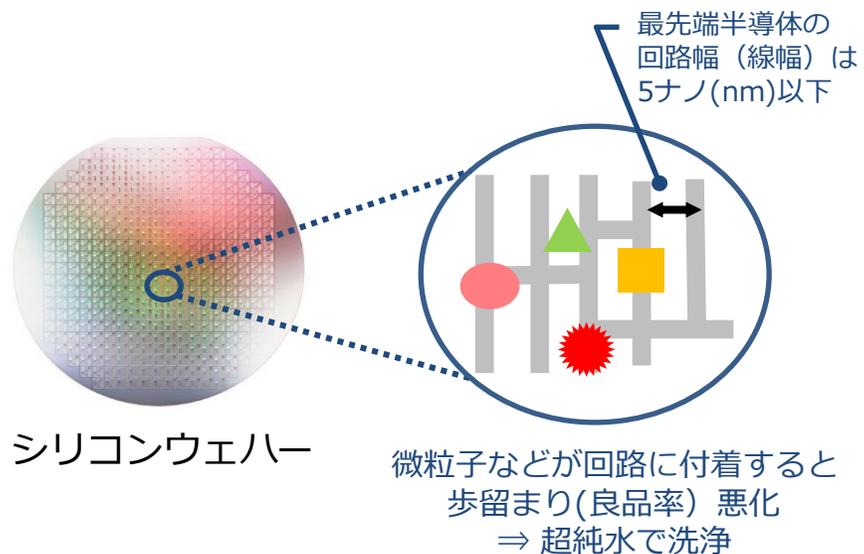


水処理エンジニア事業			機能商品事業		
電子産業 半導体・パネル・電子部品等	一般産業 医薬・化粧品、食品・飲料、機械・化学等	社会インフラ 火力・原子力発電所、上下水道	水処理薬品 各種製造業・ビル/商業施設	標準機器・機能材 医療・研究機関 コンビニ・レストラン	食品 食品/飲料・介護/健康食品

会社概要：半導体と水

多くの工程が必要な半導体製造プロセスのうち、3割程度を洗浄工程が占めると言われています。ウェハーの製造、成膜、エッチング、レジストなどの前後で繰り返し行われる洗浄プロセスに超純水が用いられています

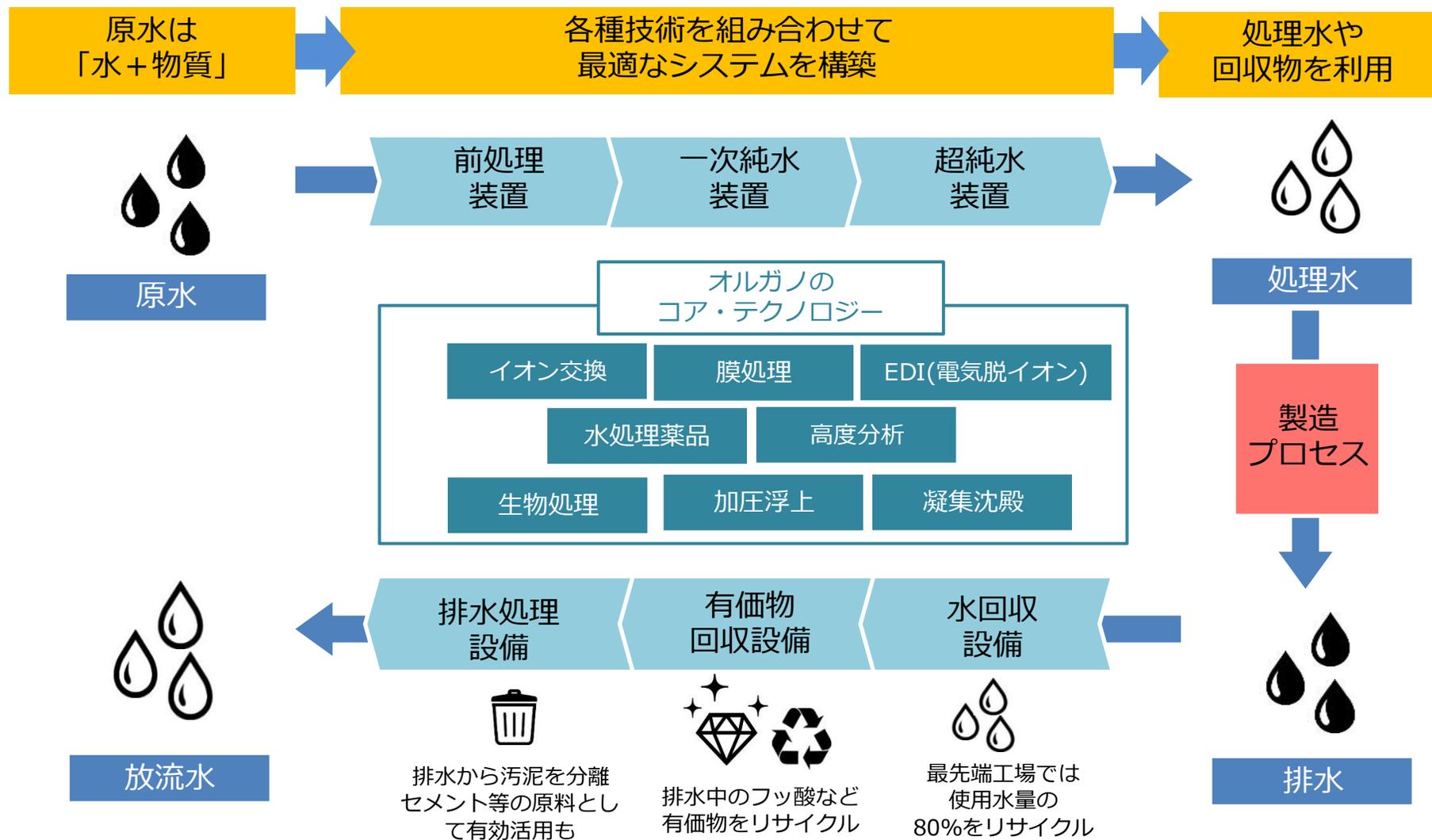
超純水で歩留まり改善に貢献



不純物濃度	1ppt以下	質量濃度は1兆分の1。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)の超純水に溶け込んだ不純物の量は僅か耳かき1さじ(2.5mg)分
製造水量	1000Ton/時	大容量の高性能ポンプや大口径配管を使用。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)が2時間半で満杯に
水の回収率	80%	半導体工場では洗浄用水など大量の水を使用するが、最先端の工場では80%以上の水を回収し再利用。水のリサイクルだけでなく、排水中に含まれる有価物を回収する技術も活用

オルガノはウェハーやチップの洗浄に用いられる超純水の供給設備、洗浄や他の製造工程で生じる排水を無害化・廃棄物を低減するための処理設備、水のリサイクルシステム、排水からフッ素・レアメタルなどの有価物を回収・再資源化するシステムなどを提供しています

会社概要：電子産業向け水処理設備



お問い合わせ先

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。